

令和6年度丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金活動報告書

実施団体名	丹波ダーツ協会					
事業名称	第1回丹波市ダーツ大会					
事業費	75,149円	補助金確定額	50,000円	実施場所	丹波市内3箇所	
事業目的	人口減少・高齢化に伴う地域コミュニティの衰退が深刻化している。本事業では、ダーツを通じて新たなコミュニティを形成し、地域住民の交流促進を図った。ダーツという世代を超えて楽しめるゲームを通じ、地域住民が集まる場を創出し、「ダーツの街」として観光振興も目指した。これにより、地域住民の生活の質向上、地域課題解決に向けた協働の促進、さらには地域の活性化に貢献することを目的とした。					
事業内容	丹波市において、地域住民の交流促進を目的としたダーツの練習会・体験会を氷上、青垣、山南町の各地域で実施した。各会には20名程度の参加があり、年齢層も幅広かった。続いて、第1回丹波市ダーツ大会を2日間にわたり開催。24名の参加があり、地域住民の活発な交流が見られた。これらの取り組みは、丹波市全体の活性化に寄与するものと期待される。					
事業の成果感想等	<p>当事業において、丹波ダーツ協会は地域コミュニティの形成に成功した。積極的に広報活動を実施した結果、潜在的なダーツ愛好家を掘り起こし、新たな層の参加を得ることができた。既存の地域コミュニティにおいても、ダーツを通じた交流が深まり、より強固な繋がりへと発展した。</p> <p>年齢層は10代から70代までと幅広く、老若男女が楽しめる事業となった。また、ダーツを通じて運動不足解消の機会を提供できた。</p> <p>丹波ダーツ協会のメディア戦略により、「ダーツの街」というブランディングが定着し、観光資源としての地位を確立した。ウェブサイト、丹波ダーツマップの作成に加え、NHKやサンテレビなど多数のメディアに取り上げられ、丹波市は関西圏で広く知られるようになった。特にNHKでの特集は、兵庫県内および関西全域で放送され、丹波市の知名度向上に大きく貢献した。</p>					
参加人数	大人	85人	高校生	5人	合計	100人
	中学生	5人	小学生以下	5人		
			入場者	人		
事業写真						

令和6年度丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金活動報告書

実施団体名	TAMBA100アドベンチャートレイル実行委員会				
事業名称	TAMBA100アドベンチャートレイル2024				
事業費	7,499,096円	補助金確定額	50,000円	実施場所	丹波の森公苑他
事業目的	<p>(1) 丹波市地域一体となった住民同士の連帯感向上 丹波市各地域でボランティアや応援として参加し、連帯感を高める</p> <p>(2) スポーツ文化と里山文化の推進 山岳を走るトレイルランニングを通して、スポーツの楽しさや丹波の自然の豊かさを再認識するとともに、丹波市の持つ独特の里山の魅力を全国、世界に認知してもらう</p> <p>(3) 子どもの自己有用感の向上 ランナーへ応援メッセージを書きエールをおくるとともに、ふるさと丹波のよさに気づく</p> <p>(4) 里山の保全・整備の維持・推進 トレイルランのコースの倒木、枝葉等処理し、登山道の整備と里山の保全を行う</p>				
事業内容	兵庫県丹波市の財産である里山を活用し、日本国内はもちろん、国際交流の場となる大会を開催することで、全国・世界に、丹波市の魅力を認知してもらう。丹波の山々は低山ながらも、100mileの累積標高は世界一を誇り、トレイルランナーたちにとって憧れの的である。その大会を地域一体となり盛り上げ、地域住民自らが丹波市を誇りに感じられる場を作ること。				
事業の成果感想等	丹波市の財産である里山を活用し、国際交流の場となる大会を開催し、丹波市はもちろん全国、世界へ丹波市の魅力を認知してもらう契機となった。また、丹波市地域全体が一体となり、大会を盛り上げ、地域住民が丹波市に対する誇りを高めることが出来た。特に、本年度新設したファミリー、キッズ部門には多く地元子ども、家族が参加してくださり、トレランの魅力や丹波市の里山の素晴らしさに気づいてもらえただけでなく、今大会に一番華を添えるレースとなった。外国人選手が4人も参加してくれ、国際色が豊かになっている。ただ、本年度参加者の中で、宿泊場所の確保が困難だったランナーもあり、来年度は行政とも相談し、宿泊業者とも連携しながら、宿泊キャパの確保をしていきたい。来年度以降もさらに改善を重ね、世界一過酷だけれども、世界一温かい大会の構築にむけ今後とも支援をお願いしたい。				
参加人数	大人	400人	高校生	40人	合計 1,000人
	中学生	30人	小学生以下	30人	
	入場者			500人	
事業写真					

令和6年度丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金活動報告書

実施団体名	青垣地域子どもを育む協議会				
事業名称	講演会「歌で育むふるさとあおがき愛 そして、未来へ」				
事業費	155,000円	補助金確定額	50,000円	実施場所	青垣小学校体育館
事業目的	<p>青垣地域4地区（自治協議会・自治振興会）と学校が一体となって子どもを育む活動を推進する目的で「青垣地域子どもを育む協議会」を立ち上げたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて事業が停滞していた。本事業を通して、地域と学校がこれまで以上につながり、地域とともにある学校として子どもたちの育成にかかわる取組をさらに活性化していくことを目的とする。具体的には、地域の方々に子どもたちの様子や成長を見ていただいて喜び元気になる機会を増やしたり、子どもたちが地域の方々からふるさとの良さを学ぶ機会を増やしたりして、地域と学校のお互いが一体となってWIN・WINの関係を築いていくことを目的とする。</p>				
事業内容	<p>講師を招き、校歌をはじめ、歌の持つ力でふるさと愛を育む機会とする。 日 時 令和6年9月18日（水） 13:15 場 所 丹波市立青垣小学校体育館 方 法 講演会「ひとしのソング&トーク ～歌で育むふるさとあおがき愛 そして未来へ～」 目 的 校歌をはじめ、歌の持つ力でふるさと愛を育む機会とする 主 催 青垣地域子どもを育む協議会 共 催 青垣小中学校学校運営協議会、丹波市立青垣小学校、丹波市立青垣中学校 参 加 青垣小学校全児童、保護者、地域住民 青垣小学校の校歌を作曲された丹波市出身の講師高見仁志氏を招き、校歌をはじめとする歌の持つ力でふるさと愛を育む機会となった。講演会では、講話に加え、講師や学生スタッフとともに、会場が一体となって歌の素晴らしさやふるさとの素晴らしさを実感することができた。</p>				
事業の成果感想等	<p>佛教大学教育学部教授、教職支援センター長の高見仁志氏を講師に招き、講演していただくことにより、校歌やその他の歌を通して、地域の方と子どもたちがつながる機会となった。 4自治協議会毎に特色を生かして子どもの育成に関わっていただいているが、さらに青垣地域が一つとなって、青垣小学校が地域とともにある学校であることを実感することができた。 保護者ともに、地域の方に参加していただき、子どもたちの様子や成長を見ていただき、地域の子もたちを知っていただき、地域の方に喜びや元気を与える機会となった。 今回のつながりをきっかけにさらに地域ボランティアやゲストティーチャーとして学校に来ていただく機会を増やし、子どもたちが地域の方々からふるさとの良さを学ぶ機会を増やす機会となった。</p>				
参加人数	大人	100人	高校生	人	合計 350人
	中学生	人	小学生以下	250人	
		入場者			人
事業写真					
	<p>高見教授と学生たちの自己紹介の様子</p>		<p>高見教授の世界に引き込まれていく様子</p>		
					
	<p>演奏に合わせて校歌を大合唱する様子</p>		<p>会場が一つになって楽しむ様子</p>		

令和6年度丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金活動報告書

実施団体名	丹波モルック協会				
事業名称	たんばでモルック！				
事業費	45,919円	補助金確定額	11,000円	実施場所	兵庫県立丹波年輪の里
事業目的	本事業を通じて、多世代での交流の機会を創出し、交流を深めることで、コミュニティ活動に対して幅広い世代に関心をもってもらい、将来の地域の担い手の確保やコミュニティ活動の継続・活性化へと繋げる。				
事業内容	<p>○運営方法 4日間実施</p> <p>①モルック体験会 モルック体操、体験前に準備体操します。 指導員によるモルック体験、また、スタッフと対戦しながら体験します。 指導員の進行による参加者同士で楽しめます。</p> <p>②対戦 1人でもグループでも参加しやすいように参加者同士でチームを編成し、対戦し楽しめます。</p>				
事業の成果感想等	モルック体験会を実施して、多世代交流に有効なコミュニティ活動と確認できました。参加人数は兵庫県年輪の里公園利用者が中心で、4日間全体で110人の参加がありました。参加された方は、体験して初めてモルックの楽しさ、子供と大人、親子、祖父母と孫が年代を超えて家族一緒に楽しめるもの空間を共感し楽しんでいました。参加者の「あれ？」「よっしゃ！」「・・・」などの笑顔、驚きの様子を見て、今後もモルック体験会を引き続き活動を続けていけたらと思いました。				
参加人数	大人 60人	高校生 人	中学生 人	小学生以下 50人	合計 110人
	入場者 人				
事業写真					

令和6年度丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金活動報告書

実施団体名	たんば手づくり絵本の会					
事業名称	たんば手づくり絵本20周年展					
事業費	140,000円	補助金確定額	50,000円	実施場所 丹波市立植野記念美術館		
事業目的	AIが絵も文も作成してしまうこの時代に、一枚一枚自分の手で描き、製本も自らの手でする文化があることを広めたい。身近な人へむけて手づくりする絵本の思いや温かさを感じてもらいたい。表現の多様性や可能性、面白さを感じ絵本への興味を深めてもらいたい。					
事業内容	手づくり絵本や絵画150点を展示。20周年展ということで共同作成の作品や、20年史も展示、手づくりの記念品も用意した。丹波らしさを出すため枝のモビールを制作し天井から吊り下げ、絵本空間を演出した。人が多いときは読み聞かせも行った。					
事業の成果感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・家族連れのがャラリーが多く（特に連休中）子どもや孫に読むほほえましい光景があちこちで見られた。 ・絵本を全部読みたいというリピーターが多かった。 ・新聞記事を読み興味をもち、来館する方が多かった。 ・遠方（京阪神地域・北陸など）からの来館者も多く美術館の建物にも感動された。 ・戦争体験を孫に伝える絵本や、地域の高齢化社会の現状を伝える絵本など社会性のある絵本も展示し、読者層の幅が広がった。（0～90代、男性ファンも） ・手品を見るような仕掛け絵本もあり子どもたちが喜んだり、作ってみたいという方も多かった。 					
参加人数	大人	457人	高校生	0人	合計	539人
	中学生	7人	小学生以下	75人		
	入場者			539人		
事業写真	 <p>(親子で絵本を楽しむ様子)</p>		 <p>(しかけ絵本コーナーの様子)</p>			
	 <p>(絵本展示の様子)</p>		 <p>(読み聞かせの様子)</p>			